

小田原市教育委員会定例会会議録

1 日時 令和6年10月30日(水) 午前10時00分～午前10時27分

場所 小田原市生涯学習センターけやき 2階 大会議室

2 出席者氏名

- 1 番委員 柳 下 正 祐 (教育長)
- 2 番委員 益 田 麻衣子 (教育長職務代理者)
- 3 番委員 菱 木 俊 匡
- 4 番委員 秋 元 美 里
- 5 番委員 齊 藤 修 一

3 説明員等氏名

教 育 部 長	菊 地 映 江
文 化 部 長	大 木 勝 雄
教育部副部長	有 泉 三裕紀
文化部副部長	諏訪部 澄 佳
教育総務課長	岡 田 夏 十
保健給食課長	吉 澤 太 郎
教育指導課長	中 山 晋
教職員担当課長	松 室 裕
生涯学習課長	田 村 直 美
	その他関係職員

(事務局)

教育総務課係長	三 浦 慶太郎
教育総務課主任	漆 崎 亜 結 美

4 報告事項

- (1) 令和6年度全国学力・学習状況調査の結果について(教育指導課)
- (2) 市議会9月定例会・決算特別委員会の概要について【資料配布のみ】
(教育部・文化部)

5 議事日程

日程第1

議案第22号 令和6年度教育委員会事務の点検・評価について(教育総務課)

6 その他

- (1) 令和6年度上半期寄附採納状況について【資料配布のみ】(教育総務課)
- (2) 令和6年度上半期教育委員会職員の公務・通勤災害の状況について【資料配布のみ】
(教育総務課)

7 議事等の概要

- (1) 柳下教育長開会宣言

- (2) 議席の指定… 1 番 柳下教育長、2 番 益田委員、3 番 菱木委員、4 番 秋元委員、5 番 齊藤委員に決定
 - (3) 9 月定例会議事録の承認
 - (4) 議事録署名委員の決定… 2 番 益田委員、3 番 菱木委員に決定
-

(5) 報告事項(1) 令和 6 年度全国学力・学習状況調査の結果について（教育指導課）

○教育指導課長 それでは、私からご説明いたします。資料 1 をご覧ください。

2 ページをお開きください。「2 調査の概要」は、概ね令和 5 年度と同様となっております。今年度は 4 月 18 日に、小学 6 年生、中学 3 年生を対象に、悉皆での調査を実施しております。調査の内容については、教科に関する調査と質問紙調査となっており、今年度の実施教科は、国語、算数・数学です。

3 ページ「3 教科に関する調査結果」をご覧ください。

(1) の各教科の平均正答率は今年度の平均正答率一覧です。国立教育政策研究所から出されている「全国学力・学習状況調査 報告書」では、「平均正答率の±10%の範囲内にあり、大きな差は見られない」とされており、本市でもその考えに準じて調査結果を整理しました。本市の平均正答率は、全ての教科において±5%の範囲に含まれ、大きな差はみられません。平均正答率を指標としつつ、今後も小・中学校ともに、学習指導要領の示す資質・能力をしっかりと身に付け、一人ひとりを伸ばしていくことが大切であると考えます。

次に(2) 小学校の調査結果をご覧ください。3 ページから 7 ページにまとめています。直近 4 回分の平均正答率の経年変化をみると、国語、算数ともに全国平均との差が縮まってきました。①国語については、「情報の扱い方に関する事項」の正答率が高くなり、知識及び技能に関する学力の一定の定着がみられました。「読むこと」については、特に人物像や物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすることに課題がみられました。これにつきましては、児童それぞれの読み方ができるように配慮し、心に残ったところとその理由を交流することにより、人物像や物語の全体像を具体的に想像したり表現の効果を考えたりすることが重要です。

5 ページに移りまして、②算数についてです。全国平均正答率との差が大きかった領域は、「数と計算」の領域になります。具体的な問題は 7 ページにございます。特に計算については個人差が大きいため、一人一人の学習状況にあった問題に取り組みせるなどの工夫が必要であると分析しております。

続きまして、(3) 中学校の調査結果です。8 から 11 ページになります。直近 4 回分の平均正答率を見ると、今年度は、各教科で全国平均との差が小さくなっています。

各教科の区分別にみていきますと、①国語では、言葉の特徴や使い方に関する事項について全国平均正答率との差が大きくなっています。文脈に即して漢字を読んだり書いたりすることができるよう指導するとともに、他領域、他教科の学習においても漢字の書きについて意識するように指導することが大切です。

10 ページに移りまして、②数学では、「図形」の領域の正答率が低く、全国平均正答率との差が大きい結果となっております。図形の性質を具体的な場面で活用する力を養うために

は、授業で実物模型や学習用端末に掲示する図形を操作しながら、図形の性質を見出すなどの学習活動を充実させることで、論理的な考察につなげる授業展開が考えられます。

12ページをご覧ください。最後に、「4 質問紙に関する調査結果」についてです。ここでは学力の向上と関わりのある質問項目についてまとめております。

(1) 教育活動の取組状況に関わる項目については、学習指導要領で示されている「主体的・対話的で深い学び」の実施、「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」に深く関わる質問項目です。国語、算数・数学について「授業内容がよく分かる」と回答している児童生徒は多く、特に中学校では、肯定的な回答をしている割合は、全国を上回る結果となっています。しかし、令和3年度に設定した目標値（国語90%、算数・数学89%）には届いていない状況です。

また、一人ひとりの学力を確実に伸ばすための取組に関わる項目として3項目あげました。【項目3】「前の学年までに受けた授業は、自分に合った教え方、教材、学習時間などになっていたか」【項目4】「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたか」【項目5】「学級の友達（生徒）との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考えに気付いたりすることができているか」です。こうした授業に関わる具体的なデータをエビデンスとして、教員が自らの授業を振り返り、今後の日々の指導や授業の改善・工夫を意識的に行っていくことが大切であると考えております。

(2) 教育環境に関わる項目については、学習と関連の深いICT環境と読書環境について、「ICT機器を活用することについてあてはまること」「家におよそどれくらい本があるか」の2項目を挙げました。これらの項目は学びと育ちを支える環境の一部ではありますが、学校や地域、家庭で連携し、いつでも学習の道具としてICT機器を利用する、本を手に取りたくなる教育環境を整えていく必要があります。

最後になりますが、本調査は、平均正答率の向上ということだけが目的ではなく、この結果を授業改善や児童生徒の学習環境の整備に生かすことが大きな目的であると考えております。学校には、あわせて児童生徒質問紙調査や学校質問紙調査の結果も積極的に活用することや、本年度から全校で実施している「ステップアップ調査」の結果から学力向上プランを立てることを通して児童生徒の学力向上に向けた取組を進めていただくようお願いをしているところです。

なお、本日提出した資料につきましては、今後、市HP等におきまして公表する予定です。

説明は以上となります。

(質疑・意見等)

○**益田委員** 支援級に通学している児童も同じテストを受けているのでしょうか。

○**教育指導課指導主事** その児童の個々人により対応が異なります。学校と保護者で相談して決定しています。

○**秋元委員** 4ページ下段、「小学校国語「読むこと」の問題と正答率」の3「【物語】を読んで、心に残ったところとその理由をまとめて書く」という項目、これは非常に重要なこと

だと捉えています。業務経験上、物事が起こったときにそれをどう捉えているか、どういう気持ちか、今後どうしていきたいのかを言語化するのは、社会人でもとても難しいことです。ここが全国平均と比べて－7.9%という数字は、推移としてはあまり芳しくないと考えます。その上で、5ページのまとめにある「児童それぞれの読み方ができるように配慮し、心に残ったところとその理由を交流することにより」として想定される場所は、児童同士で交流することととらえてよろしいでしょうか。

○教育指導課指導主事 おっしゃる通りで、交流するというのは、子供たちが自分はどう思うと意思表示し、それに対してコメントするなどのことを指しています。

○秋元委員 それは、やはり言語化することに慣れるために取り組んでいるということでしょうか。

○教育指導課指導主事 その点もございまして、自分と違う意見を知ることや、それに対しての自分の意見を述べるという観点もあります。

○菱木委員 資料14ページに「あなたの家にはおおよそどれくらいの本がありますか」という項目がありますが、今の子供たちは必ずしも紙の本だけでなく、場合によっては電子書籍などで読んでいる家庭も相当数存在します。「月にどれくらい本を読みますか」などの質問の方が適していると感じますが、これは県などの規定により決められているのでしょうか。

○教育指導課長 質問事項については全国統一で決まっていますが、電子書籍も含め児童生徒がどのくらい読書活動を行っているかは、市独自で調査を行うなどして、また別の観点から把握することを検討してまいります。

○柳下教育長 社会力を育むのに一番大切なのは授業です。その授業の中で大切な三つの項目の一つが、学び合うことだと考えています。学び合うことは非常に大切で、自分と違う意見を自分の考えと比べてさらに高めていく、それが学びの重要な部分と認識しています。それを踏まえた上で、資料13ページの「学級の友達（生徒）との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考えに気付いたりすることができている」の項目が小田原の場合全国平均と比べて数値が低いということは、大変残念な結果だと考えています。校内研究などの時に、積極的に教員へ周知・指導を図ってもらえればと思います。

(その他質疑・意見等なし)

(6) 報告事項 (2) 市議会9月定例会・決算特別委員会の概要について【資料配布のみ】
(教育総務課)

○柳下教育長 次に、報告事項 (2) 「市議会9月定例会・決算特別委員会の概要について」は資料配布とさせていただきますので、ご了承ください

(7) 日程第1 議案第22号 令和6年度教育委員会事務の点検・評価について
(教育総務課)

○教育総務課長 それでは、御説明させていただきますので、お手元の報告書(案)の1ページをお開きいただきたいと存じます。

はじめに1ページから4ページまでは、令和5年度における教育委員会の活動状況をまとめたもので、定例会等の開催状況、会議等への出席状況を記載しております。

5ページを御覧ください。こちらには、点検・評価の目的、実施方法、日程などについて記載しております。

続いて、6ページをお開きください。(4) ヒアリング日程等ですが、今年度のヒアリングは、9月4日水曜日午後1時15分から実施いたしました。学識経験者として、横浜国立大学教育学部教授 重松氏、小田原市PTA連絡協議会会長 阿部氏、及び元小田原市職員 露木氏に御参加いただくとともに、露木氏にはコーディネーターを務めていただきました。

なお、(5) のとおり、今回の選定にあたりましては、教育長及び教育委員の皆様の関心の高い2事業及び事務局から1事業を選定し、計3事業のヒアリングを実施いたしました。

7ページを御覧ください。点検・評価ヒアリング結果一覧でございます。事業ごとの評価とし、右から2つ目の欄でございます。各事業の「今後の方向性」につきましては、それぞれの選択肢を選んだ人数を記載しております。

8ページ以降は、ヒアリング項目ごとに記載しております。

8ページ・9ページは、「おだわら市民学校事業」でございます。はじめに、所管課の自己点検・評価として各事務事業の事業概要と成果、評価・振り返り、今後の方向性をまとめておりますが、これはヒアリング時の資料と同じ内容でございます。

9ページには、ヒアリングの中で皆様からいただいた御意見を、「点検・評価者からの主な意見」として記載し、最後に「点検・評価者からの評価結果」として、ヒアリングを踏まえ、点検・評価者が選択した今後の方向性として、それぞれの選択肢を選んだ人数を記載いたしました。

以降は同様に、10ページ・11ページには「学力向上支援事業」を、12ページ・13ページには「教職員人事・サービス・健康管理事業」について記載しております。

次に、14ページをお開きください。ここから18ページにかけては、令和5年度に実施した点検・評価結果と、その後の対応状況をまとめたものです。

19ページを御覧ください。こちらは、参考資料といたしまして、小田原市教育振興基本計画（令和5年度～令和9年度）の成果指標に係る成果を添付しております。

報告書についての説明は以上でございますが、最後に、今後の予定を御説明します。報告書の5ページにお戻りください。

(2) 点検・評価の実施方法 【オ】 から【キ】 を御覧ください。

本日の定例会で報告書について議決をいただき、その後、報告書を市議会に提出いたします。11月14日の厚生文教常任委員会での報告を予定しております。それから、市のホームページに掲載するとともに、小・中学校、幼稚園及び公共施設へ配架させていただく予定でございます。

その後でございますが、【ク】 に記載したとおり、点検・評価における主要な御意見について、事務局としての考え方や対応を、随時、教育委員会定例会で報告・協議しながら、事業への反映に努めてまいります。

以上で、説明を終わらせていただきます。

(質疑・意見等)

○**益田委員** 今回は3事業を選んで行いましたが、来年度は今年度と同様の内容で行う予定でしょうか。

○**教育総務課長** 過去には今よりも更に複数の事業について点検評価を行っていたと聞いております。現在は事業仕分けの手法で点検・評価を行っておりますが、来年度以降の内容については、実施方法も含めその都度委員の皆様にご相談しながら決めていきたいと考えております。

(その他質疑・意見等なし)

採決…全員賛成により原案のとおり可決確定

(8) その他

その他 (1) 令和6年度上半期寄附採納状況について【資料配布のみ】(教育総務課)

その他 (2) 令和6年度上半期教育委員会職員の公務・通勤災害の状況について

○**柳下教育長** 次に、その他の「令和6年度上半期寄附採納状況について」および「令和6年度上半期教育委員会職員の公務・通勤災害の状況について」は資料配布とさせていただきますので、ご了承ください。

(9) その他意見

○**齊藤委員** 様々な議論を踏まえた上での現在の定例会のスタイルとは思いますが、紙資料が多く感じます。直前の差し替えなどの事務の手間も増えるので、今年度は難しいかもしれませんが、来年度以降タブレットを使うなどを検討してはいかがでしょうか。

開催方法についてはICTを導入していかないと、紙も資源ですし、サステナビリティが叫ばれている昨今、教育を司るこの場としては、少しずつ取り組んでいく必要があると感じております。事務の業務効率化も図れるのではないのでしょうか。

○**教育総務課長** 県内自治体の中には、教育委員会定例会にICT機器を導入している自治体も何市もあり、齊藤委員のおっしゃっていることの方性は正しいと感じております。ただ、予算との兼ね合いや、方法については委員の皆さまとご検討していただければならない部分もあります。そのため、来年度以降にまたご相談させていただけたらと考えております。

○**齊藤委員** ありがとうございます。全体の事情把握していない中での意見ご容赦ください。コロナ前には東証プライム上場企業等にも捺印のためだけに入社する企業等もありましたが、現在民間企業はかなりICT化が進んできています。業務効率化のためにも、今後検討していただければと思います。

(10) 柳下教育長閉会宣言

令和6年11月27日

柳下教育長

署名委員（益田委員）

署名委員（菱木委員）